

研究室訪問 意見交換会③ (多文化社会学部)

5月8日(火) 平和班と水班の代表生徒15名が、長崎大学多文化社会学部を訪問し、森川裕二教授との意見交換会を行いました。はじめに、森川教授から「日本の中の世界、平和の視点」と題してご講演をいただき、その後研究に取り組む際の手順などについて説明していただきました。質疑応答は大変盛り上がり、終了時間は1時間もオーバーするほどでした。

「目を向けると同時に目を背けている」「記憶は国や人の関係の中で変化していく」など、普段私たちが見過ごしていたものの見方にも気づかされました。生徒たちからは、「全ての人の立場から共感できる研究をしたい」「その国の国民によって歴史について学んでいる考え方も見方も違うことがわかった」「『市民』の立場で物事を考えるということを大切にしてお中立的な立場で研究を進めていこうと思う」などの感想が聞かれました。



研究室訪問 意見交換会④ (工学部)



5月9日(水) 水班の代表生徒8名が、長崎大学工学部を訪問し、板山朋聡教授との意見交換会を行いました。はじめに、自分たちのおおまかなテーマや今考えていることについて発表し、それぞれに、丁寧なコメントやアドバイスをいただきました。その中で、「インターネットもいいけれど、研究者の方による本をまず読むこと」などの指摘を受けました。また、「環境問題を扱うには『心をどう動かすか』が大切であり、文化的背景を知ることが大事だ」とも教えていただきました。その後、先生の研究発表をパワーポイントを使って簡単に解説していただき、文化の違いに驚くとともに、実際の研究のやり方や目標設定がどのようなものかを知ることができました。生徒たちは、「社会とのつながり

や文化的背景、経済的な面までも考える必要があるということを知り、もっと広く視野を持つことが大切だと感じました」「教育が大事だということがわかりました」などの感想を述べていました。

研究室訪問・意見交換会が一通り終わりました。今後は、参加生徒が班員に学んだことを班全員で共有し、班の研究テーマを決定し、研究を開始することになります。手順は以下の通りです：

- ①問いを立てる。(例: 平和な社会を作るにはどうすればよいか)
- ②用語を定義する。(例: 「平和」とはここでは何を指すか)
- ③複数の研究者による本を読む。(朝の読書を活用しよう)
- ④アンケート・調査を行う。(ベトナムFW参加者に依頼することも)
- ⑤意見・考察をまとめる。(ここが一番大事です)

GS II 発表会は**12月13日(木)**です。単なる調べ学習にせず、充実した研究にするために、**フォーサイト**を活用して、計画を立てて行いましょう。